第15回　記者懇談会・実施要項

1　日時　　　平成11年3月30日（火）　15：00 ～

2　場所　　　100周年記念会館　第2会議室

3　内容

(1)　若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表　〔15：00～15：30〕

・橋本　恭之　　経済学部助教授

研究テーマ「税制改革の応用一般均衡分析」　　（資料1）

・前田　　裕　　工学部助教授

研究テーマ「クッキリ、スッキリ、新技法—同時摂動型最適化法とその応用」　　（資料2）

(2)　学内情報　〔15：30～16：00〕

① インターンシップ　（資料3）
② 私立大学学術フロンティア推進拠点の選定（平成10年度）　（資料4）
③ 私立大学ハイテク・リサーチ・センターの選定（平成10年度）　（資料5）
④ 大学院　修了生　（資料6）
⑤ 1999年度　入学試験志願者・合格者状況　（資料7）
⑥ 1999年度　大学院入学試験志願者・合格者状況　（資料8）
⑦ 入学式　（資料9）
⑧ 新入生歓迎特別行事　（資料10）
⑨ '99 スプリング・フェスティバル　（資料11）

(3)　情報交換　〔16：00～16：30〕

4　関西大学の出席者

石川　　啓　（学長）
橋本　昭一　（広報委員長）
浦上　　忠　（教学部長代理）
橋本　恭之　（経済学部助教授）
前田　　裕　（工学部助教授）
河田　悌一　（文学部長）
岩村　　護　（企画室長）
荒木　紀忠　（広報課長）

5　配布資料

① 野村幸正（文学部教授）著　『臨床認知科学－個人的知識を越えて－』
② 『関西大学通信』　第269，270号

以上

「税制改革の応用一般均衡分析」

経済学部助教授　　橋本恭之

　税制改革に関する研究は、これまで主として理論的な側面からなされてきた。それらの分析は高度な数学的技法を駆使したものであり、政策提言に直結するようなものではなかった。拙著『税制改革の応用一般均衡分析』関西大学出版部においては、コンピュータによるシミュレーション分析を採用することにより、税制改革の影響を数量的に把握し、現実的な政策提言と理論分析との間の架け橋となることをめざした。従来の分析では税制改革が及ぼす１次的な影響のみを考慮したものが多かった。だが、税制改革は、家計や企業の行動に影響を与え、市場の需給関係にも影響を与えるという意味で、２次的な影響をもたらすことになる。そこで、拙著では経済の相互依存関係を捉えることができる数量的な一般均衡モデル構築し、税制改革が市場の需給関係を通じて、ポジティブ（実証的）な側面とノーマティブ（規範的）な側面からの分析を行った。

はしもと　きょうじ
橋本　恭之
助教授

　財政学専攻、財政学各論担当。宝塚市出身、神戸市在住。1995年１月17日の兵庫県南部地震では、幸い直接の被害はなかったものの、断水により、水の大切さをいやというほど味合わされたとのこと。79年関西大学第一高等学校卒業後、同年関西大学経済学部に入学された。大学では、佐藤博教授のゼミで学ばれ、83年に関西大学大学院博士課程前期課程に進まれた。85年に大阪大学大学院経済学研究科に進学し、本間正明教授の指導を受けられた。89年桃山学院大学経済学部助教授に就任、95年４月より、母校である本学の専任教員として採用された。
　研究テーマは、主として租税制度、租税の経済効果であり、パソコンを用した各種のシミュレーション分析を得意とされている。趣味は、スキー、テニスだそうである。租税制度の研究はご長男の名前におよび、租税の３原則のひとつの公平だそうだ。

クッキリ、スッキリ、新技法
― 同時摂動型最適化法とその応用 ―

関西大学工学部　前田　裕

騒音の抑制や制御をはじめとする多くの問題は、ある関数の最適な点を求める問題に帰着することができます。同時摂動型最適化法は、従来手法と異なり、調整する係数が多い場合でも、ひとつあるいはふたつの関数の値のみから最適値を求める逐次的求解法です。従来手法では適用が困難な種々の問題に、この手法は適用可能です。この懇談会では、この手法の応用例について紹介します。

- 複数の混ざり合った信号をもとの信号に復元するブラインド信号分離への応用。
- スピーカーから音を出して騒音源の音を打ち消し騒音の抑制を行う能動騒音制御への応用。空港や道路、工場などの騒音の抑制への可能性を探っています。
- 柔軟な素材からなるロボットアームの制御への応用。軽量な素材をロボットに用いることができれば、その軽量化や省エネ化がはかれ、安全性も増すでしょう。

特に、ブラインド信号分離と能動騒音制御への応用例では、その適用結果を具体的に示したいと思います。

プロフィール

１９８１年大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了。府立工業高校の教諭を経て、１９８８年４月、助手として関西大学に着任。専任講師を経て、現在、工学部助教授。関西大学学術フロンティアセンター主任研究員。この間、在外研究のためカリフォルニア大学アーバイン校に客員研究員として１年間滞在。工学博士。電気学会関西支部協議員。計測自動制御学会関西支部役員。

専門は電子制御工学で、ニューラルネットワークや確率近似法に関する研究をすすめてます。最近は、同時摂動型といわれる最適化手法を提案しており、この手法の騒音抑制、フレキシブルアームの制御、ブラインド信号処理などへの応用に関する研究を行っています。ニューラルネットワークのＬＳＩ化や学習に関する研究も行っており、研究成果は国際会議でも活発に発表しています。